

会報十月号 二十一世紀の武士道精神

目次

- ・時代の崩れ
- ・精神の復活
- ・宇宙生命のはたらき：陰陽相對(待)性の原理
- ・武士道精神とその要素
- ・花は櫻木 人は武士…

●時代の崩れ

物質偏重、利己第一という流れに日本は屈服従属し、卑屈怠慢になってしまっているようだ。これが日本という国の進む道なのだろうか。強く優しく責任感のある日本人として世界へ貢献するという本然の道に戻るための自覚奮発が急務ではないだろうか。己自ら目覚め、暁鐘をつき、自らを光らせて周囲を照らすという大任を負うべきではないだろうか。

自分をはじめとして、なぜ人は墮落し、時代は崩れるのか…。

それは、生活を「楽しむ」ことが十分に価値を置き、国の為、世の為に刻苦奮励する気概が欠けてしまっていたからではないか。

例えば、容貌が美しく、人柄が優しく、歌や楽器やダンスが上手かったり、スポーツが得意だったり、金儲けが上手かったり…、それを理想の人物として憧れの対象としたとする。もし女性がこういう人に憧れ、男性がこれを目指すのであれば、紀綱(国を治める上での大小の規律)を張ったり、国防や治安を維持したり、進んで国力を増すように力を尽くし、国民生活全体の向上を図るという事は、いったい誰がやるのだろうか？結局、「男らしい男がいない」「彼氏や旦那を漢にする女がいない」「自分達のことしか考えられない男女ばかりになった」ということだ。

社会が崩れるのは、国を憂い、道を守り、邪悪を排除して、風紀を正し、真つ当な造化に向かおうとする人物が少ないからである。歴史を忘れ、国家を軽んじて、自分中心に物事を小さく考え、自分だけ楽しくあれば良いとする風潮は、国家を何処へ向かわせるのか。それは滅亡への道であることは歴史が物語っている。

●精神の復活

滅亡への道から、日本人としての誇りを取り戻して世界へ貢献し、次世代へ日本人

としての高き精神文化を渡していきたいという気持ちに嘘はない。

そのためには、日本精神を甦らさねばならない。その精神文化の一つの象徴として「武士道精神」を挙げる事ができると思う。

武士道精神とはどういうものか。それは、物欲に囚われることを卑しめ、生命の健やかな躍動を希求すること。己の生活においては、分を弁えて足を知り、外には仁義礼智信の徳を、万物を生成化育していく仁に帰着させ、「仁を為す」ことに責任を持たせるために、これを「忠義を果たす」という態度に日本精神を集約させた。

換言すれば、

- ・ 忠義を全うすることに勇敢であり、
- ・ 他者には礼節と思いやりを持ち、
- ・ 物事に処するには己の名譽を重んじて誠を尽くす

これらを重んじる精神である。

#### ● 宇宙生命のはたらき：陰陽相対(待)性の原理

物事は分化していくことで発展していく。しかし、あまりに統一調和含蓄というものを忘れて分化末梢に拘ると、生命力が末梢化して生命が維持できない。これを人間に推せば、一番大事なものは統一的性命であり、肉体においては元氣・活力であり、精神においては氣根・精進である。つまり、理想に向かって真摯に努力していくことが最も大切となる。これが盛んな時は、どのような艱難辛苦に直面しても大したことはないが、氣根・精進が足りなかったり理想を忘れたりすると、生活の細事にわたっていちいち悩みを深くすることになり、精神が弱って分裂しがちになる。

これを民族・国家に推して考えても同様である。民族全体を通じて共通した理想や目標がある時は、その民族生活に欠陥や弊害があったとしても知命的にはならない。しかし、理想がなくなって、国家の進むべき方向が曖昧になると、民族の活力が失われ、その墮落は目も当てられなくなる。目標がなくなれば、緊張から弛緩へ移り、皆が好き放題バラバラに短期的快樂を追求するようになる。そしてそれを、自由とか個人主義等、もっともらしい言葉で正当化しようとする。

論語は「君子は其の本を務む。本立ちて道生ず」と説く。枝葉や花実を根本によって存在するのである。根本が豊かで健やかであれば、枝葉や花実という派生的なものは瑞々しく栄える。この場合、枝葉や花実は根幹からの分裂ではなく分化である。つまり繋がっているのである。

実在が発現し分化して、枝葉・花実と伸びていくのが「陽」のはたらきであり、この分化をそのままに統一含蓄しようとするはたらきが「陰」である。実在とは、陰陽相対(待)性の原理によって成立活動している。親子、兄弟、夫婦、友達というように、陽のはたらきによって分化したものを、仁愛という感情で内面的に統一していくことで人生の創造は促される。しかし、一方で情に溺れ、愛に流されてしまうというように、「陰」に偏重してしまうと、各個人の明確な自覚努力というものが不足して、造

化の根本である成長・発展ということを阻害する。この陰と陽が兼ね備わってはじめに浚刺としてその生命を躍動させていくことができる。これが造化の本質である陰陽相対(待)性の原理である。

#### ● 武士道精神とその要素

この、万物を生成化育していく造化のはたらき(道)を、日本人の行動に推したものの一つの典型が「武士道」であり、造化の原理(陰陽相対(待)性の原理)を日本人の精神に推したものが「武士道精神」である。

中国の古典である「春秋左氏伝」に「武」を説明するこんな話が載っている。楚(そ)の荘王が晋との戦いに勝ったときのこと。家臣が「晋軍の死骸を集めて、戦勝記念の築山を築いてはどうか」と進言した。すると荘王は「武は戈を止めるという意味だ。武とは暴を禁じ、戦を止め、民を安んじ、衆を和し、財を豊かにするためのもの。しかし、多くの犠牲を出した私にはその資格がない」と答えた。

ここでは、「武」とは「戈(戦い)を止めること」だと書かれている。西暦百年にできた「説文解字」にもこの話が紹介されている。十九世紀末に、甲骨文や金文が発見され研究が進むと、「止」が「左足の足跡」であることがわかり、「とまる、とめる、とどまる」という意味の他に、「行進する、進む、到達する、至る」という意味も持っていることがわかった。そして「武」は「戈を持って進む、攻める、戦う」という意味も出てきた。

二十一世紀の今日、「武」はどう解釈すべきか。

陰陽相対(待)という造化の根本原理から考えると、相対する力(戈)を止揚(対立矛盾する諸要素を発展的に統一調和)していくこと、つまり、陰陽相対(待)性の原理に則って、自分や社会を前に進めていく力である、と考えるべきである。

「武」とは、造化の働き(万物生成化育)を体現するための力であり、「武道」とは、その力を人生や社会を前に進め成長させていくために使う道である。従って、武道に志すことで自己を鍛錬陶冶し、社会に位育参賛して世の中を明るく健やかに豊かにしていくことが武道の理想である。そして、このような自己や社会を実現させていく勇猛果敢な人間を涵養する道と精神が「武士道」であり「武士道精神」である。

これは人間をして「自・分」を自覚させ、情欲の奴隷としてではなく、道義の主体として人格的創造活動(己の立場で造化の道を体現していく活動)の中で生きる人間になるということである。それは、仁に根差し、各々がその個性特質を鍛錬陶冶によって明らかにし、自己実現と同時に自他共栄に資する無限の努力を行い得る人という。そして、もし個々人の欲求(私欲)と全体欲求(道義)とがぶつかり合う場合においては、全体欲求(道義)を優先できる人である。

このような観点から、所謂「武士」の徳性を改めて考えてみる。それは、造化のはたらきの根本にある「陰陽相対(待)性の原理」から推して、以下の三点に集約される。

① 物事を発現させるには力がなければならぬ。そこでまず必要なものは、所謂

「元氣」、氣力と骨力である。力の感じ、性命力、生命の健やかさというものである。つまり、創造の力であり、矛盾苦悩に耐える力が必要である。力が弱ければその活動や表現は定まる(止する)ところがなく、どこか散漫、分裂である。

しかし、力強さが前面に出過ぎては粗野になり、観るべくところが無くなる。

そこで、表面上はそこに節度を持ち、足るを知る、分を知る、節度や克己が不可欠である。その為には心が定まっていること、換言すれば、志や理想が明確であることが大切である。「一」に止まり、「一」を貫く。一道を貫くために、ある時は堅く(忍耐)、ある時は柔らかく(柔軟性)応じていく。造化を顕現させる「元氣」を養ってこそ、他者と様々に繋がり和していくことができ、我々の人生を絶えざる造化とすることができ。これは「勇」の徳である。

②元氣(氣力・骨力)は、物事を発現分化していく「陽」の力だが、今まで見てきたように、そこには統一含蓄する「陰」の力がなければならぬ。それを「蘊藉(うんしゃ)」という。これは、「含み、潤い、落ち着き、包容」等のことである。よく創造的なもの程、よく内に養うところがある。己の胸底に悠々たる安立と、寂然たる諦観があつてはじめて天地人生を自在に創造していくことができる。これは「仁」の徳である。

③勇と仁の徳を適切に顕現させていくには、様々な鍛錬陶冶と経験によって会得した造詣(専門技術・専門知識)が必要であり、これを「深趣」という。これは「奥深さ」である。蘊藉(仁)は深さ(智)と相待ち、元氣(勇)によって形作られる。これは「智」の徳である。

元氣、蘊藉、深趣。つまり、智仁勇の徳を兼ね備えた人物であつて初めて、武士道精神を体現することができる。

●花は桜木 人は武士・・・

一休宗純禅師の言葉に「花は櫻木 人は武士 柱は檜 魚は鯛 小袖はもみじ 花はみよしの」という言葉がある。花だったらこれ、人だったらこれ・・・と最上だと思つたものを挙げていった。なぜ「花は櫻木」なのか？櫻(桜)と薔薇を比較するとその特徴が際立つ。桜は色も匂いも淡く、トゲも持たない。そして、いつまでも咲くことに囚われず、散り際が潔い。このような桜の性質を美しいと感じる心が日本人にはあるのだ。

そして「人は武士」と続く・・・あなたの心にも武士道精神はあるだろうか。理想を忘れたりしていないだろうか。私は智仁勇を推してこう考えている。

勇を以て義を為し、仁を以て礼を為す。

敬を以て孝を為し、誠を以て忠を為す。

智を以て功を成し、信を以て道を成す。

今月も健康と健闘を。